

資料 2

# 第5回和光市レベル4モビリティ・地域コミッティ

## 報告及び議事事項説明資料

令和8年3月26日（木）  
和光市公共交通政策室

# 目次

---

## 【報告事項】

- 報告事項 1 令和 7 年度における実証走行の中止について……p.2~5
- 報告事項 2 令和 7 年度社会実証の取組と成果……………p.6~7
- 報告事項 3 第 6 回和光市自動運転サービス導入事業  
におけるワーキングの開催結果について……………p.8

## 【議事事項】

- 議事事項 1 自動運転の動向と今後の進め方について…………… p.9~11

# 【報告事項 1】

## 令和7年度における実証走行の中止について

令和7年12月和光市議会定例会において、議案第76号「自動運転サービス導入に関する大型EV自動運転バス購入契約の締結について」が否決されたことに伴い、今年度実施予定としていた実証走行を中止した。

実施項目	2025年				2026年		
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
和光市議会	● 9月定例会 ※予算可決 ●			● 12月定例会 ※購入契約否決 ●			
ワーキング		● 第5回ワーキング ●				● 第6回ワーキング ●	
レベル4モビリティ・地域コミッティ		● 第4回コミッティ ●					● 第5回コミッティ ●
自動運転車両購入/セットアップ/ 運転士トレーニング				● 車両購入 ● ● セットアップ+運転士トレーニング ●			
アンケート調査準備・実施・とりまとめ					● 準備 ●	● 実施 ●	● とりまとめ ●
広報		● 広報物の作成 ●	● 市民祭り、出前講座、住民説明会 ●			● 見学会 ●	
予約システム・コールセンターの実装				● 予約受付開始 ●			
路車協調システムの実装			● システムの調整 ●	● システムテスト ●		● 実証(任意の1日) ●	
3期社会実証走行						● 3期社会実証 ●	
3期社会実証走行結果とりまとめ							● とりまとめ ●

実証走行の中止

## 【報告事項 1】

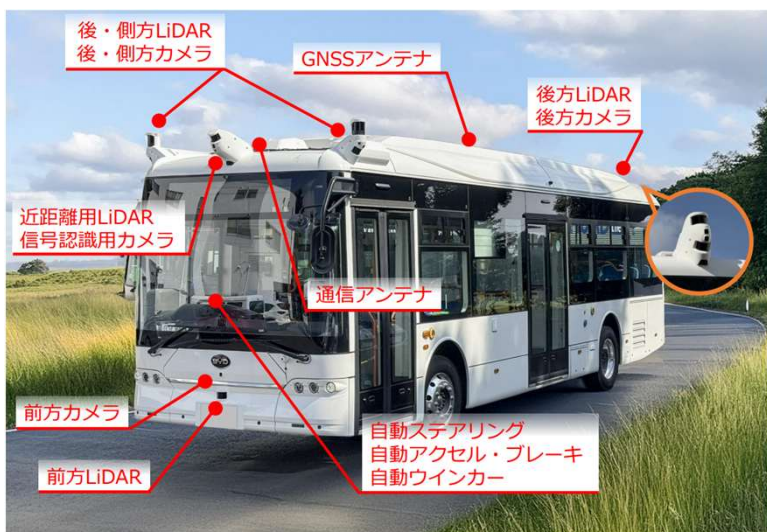
### 令和7年度における実証走行の中止について

#### ■ 議案の概要

- 購入契約に係る予算は、令和7年9月和光市議会定例会で可決
- 公募型プロポーザル方式の事業者選定により、購入契約の優先交渉権者を決定
- 条例に基づき、議会の議決に付すべき契約として、**議決を経て本契約が成立するもの**

件名	自動運転サービス導入に関する大型EV自動運転バス購入
納品場所	和光市が指定する場所
契約の方法	公募型プロポーザルによる随意契約
契約金額	96,800,000円（税込）
契約の相手方	先進モビリティ株式会社
納入期日	令和7年12月19日

#### ■ 導入を予定していた車両の概要



車種名称	K8（BYD社製）
初度登録年月	令和7年5月
積算走行距離	818km（令和7年10月時点）
乗車定員	75人【座席21席＋立席45席＋跳上席8席＋運転席1席（車いす固定スペース2席）】
寸法・重量・航続距離	車長10,500mm×車幅2,495mm×車高3,270mm 重量15,980kg 航続距離240km（カタログ値）
車体構造等	EV自動車/ノンステップバス/ルールベース方式

# 【報告事項 1】

## 令和7年度における実証走行の中止について

### ■ 和光市議会における議案に対する主な論点

1

#### 手続きの公正性と透明性

##### ●市の考え

- ・ 事業者選定にあたっては、これまでの受託業者との随意契約ではなく、公募型プロポーザル方式を採用
- ・ 納期や事業費等については、サウンディング型市場調査を実施し、事業条件が適正であることを事前確認した
- ・ 選定委員は、専門的知見を有している方々を選定し、今回の実証内容と応募事業者との共同特許等は無関係であり、選考委員と応募事業者は利害関係を有していない

##### ●議会の考え

- ・ 予算額を特定業者の見積もり車両価格から算出している点や、公募期間が短い点など、選定プロセスが不透明である
- ・ プロポーザルの評価内容、委員の選定基準への疑義や、応募者が1者のみの契約は不適切である
- ・ 選定委員と応募事業者が共同特許の発明者という利益相反関係にあり、行政契約としての公平性を欠いている

2

#### 車両採用に伴う安全保障・地政学的リスク

##### ●市の考え

- ・ 自動運転制御システムやセンサーは国内事業者が開発・管理し、情報管理は国内サーバーでセキュリティ対策している
- ・ 当該車両は国内で導入実績も多く、仕様書で保証期間を定め、導入後の事業継続性に配慮している

##### ●議会の考え

- ・ 外国製車両を採用することによる、サイバー攻撃や個人情報流出のリスクへの懸念
- ・ 外国の社会情勢や国際関係の変化により、部品供給が停止し、事業継続が困難になる懸念

3

#### 整備手法等の非効率性

##### ●市の考え

- ・ バス専用車線は、公共交通の定時性の確保や移動手段の充実を図り、基幹交通軸の利便性を向上させるもの
- ・ 小型バスから実証を重ね、得られたデータを活用しながら、輸送力の高い大型バスへ段階的に検証する

##### ●議会の考え

- ・ 街路樹を伐採し、多額の費用をかけてバス専用車線を整備する手法は時代遅れで非効率である
- ・ これまでの小型バスの知見を捨て、あえて懸念の残る大型バスに乗り換えることの合理性の欠如

## 【報告事項 1】

### 令和7年度における実証走行の中止について

#### ■ 地域コミッティ及びワーキングメンバーへの意見照会結果の概要

- 実証走行中止による関係者や今後の事業への影響と、これまでの事業の進め方及び計画のあり方について確認するため、地域コミッティ・ワーキングメンバーに意見照会を行った。

論点	回答概要
手続きの公正性と透明性	<ul style="list-style-type: none"><li>● 大型EV車両など条件を踏まえればプロポーザルの内容は適切</li><li>● 利益相反との指摘があった事業者選定委員の人選について、今回の事例は特許に該当せず、多様な事業に参画している中で十分に配慮している</li></ul>
車両採用に伴う安全保障・地政学的リスク	<ul style="list-style-type: none"><li>● EVバスでは国産車両より当該車両の方が実績も多く、他地域での運用でも問題はない。信頼に足る自動車メーカーである</li></ul>
整備手法等の非効率性	<ul style="list-style-type: none"><li>● 市がバス専用車線を整備し、実証走行の場を整えたというのは運転手不足が進む状況下において他市と比較しても強みがある</li><li>● 市域北側の工業地域や今後の開発においても、輸送力が確保されていることで進出希望の企業にも選んでもらえるようになる</li><li>● 2027年度を目途として自動車メーカーの本格的参画も見通され、2030年代には確実に普及していく。それまでに実証を着実に完了し、ODDを確定させておくことでスムーズなレベル4導入が進んでいく</li></ul>
上記の他、想定される影響や事業の進め方及び計画のあり方への意見	<ul style="list-style-type: none"><li>● 将来的な和光市内における交通網の維持へのリスク</li><li>● 運転手不足によるバス路線再編の再検討の可能性</li><li>● 実証及び検討が中断することによる、自動運転の普及の遅れ</li><li>● 自動運転バスにより、駅北側の幹線を自動運転に担わせることで、その余剰分の運転手を路線バスや循環バスの運行に振り分けることもできる</li><li>● 先端技術のPR等の副次的効果は大きく、長期的な意義を検討する</li></ul>

## 【報告事項 2】

### 令和7年度社会実証の取組と成果

- 令和7年度は広報活動として、和光市民まつりでブースの出展や住民説明会を開催し、自動運転サービス導入事業に関する広報を行った。
- 和光市民まつりでは、約120人の方にブースに立ち寄っていただき、自動運転サービスについて広報を行った。また、住民説明会では、延べ53人（前回比22人増）に集まっていただき自動運転サービスについての説明を行った。

#### 市民まつりの様子



#### 市民説明会（オープンハウス）



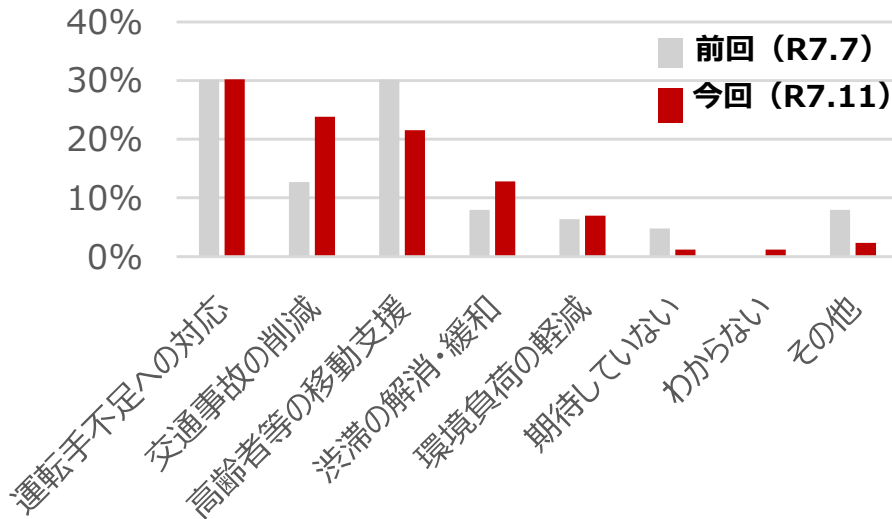
	開催日時	開催場所	参加人数	内容
市民説明会	令和7年7月9日, 12日, 24日	新倉北地域センター, 南公民館, 議会棟1階オープンハウス形式, Web形式	35人	事業計画の説明及び参加者との意見交換
市民まつり	令和7年11月9日	和光市役所	約120人	社会受容性醸成の取組及び3期社会実証走行にむけてのPR
市民説明会	令和7年11月10日, 11日, 15日	新倉北地域センター, 南公民館, 議会棟1階オープンハウス形式, Web形式	53人	3期社会実証走行の説明及び意見交換
出前講座	令和8年3月5日, 12日	新倉北地域センター, まちかど生き生きプラザ	19人	高齢者向けの自動運転サービスの講座
	令和8年3月22日	和光市役所	18人	小中学生向けの自動運転サービスの講座

## 【報告事項 2】

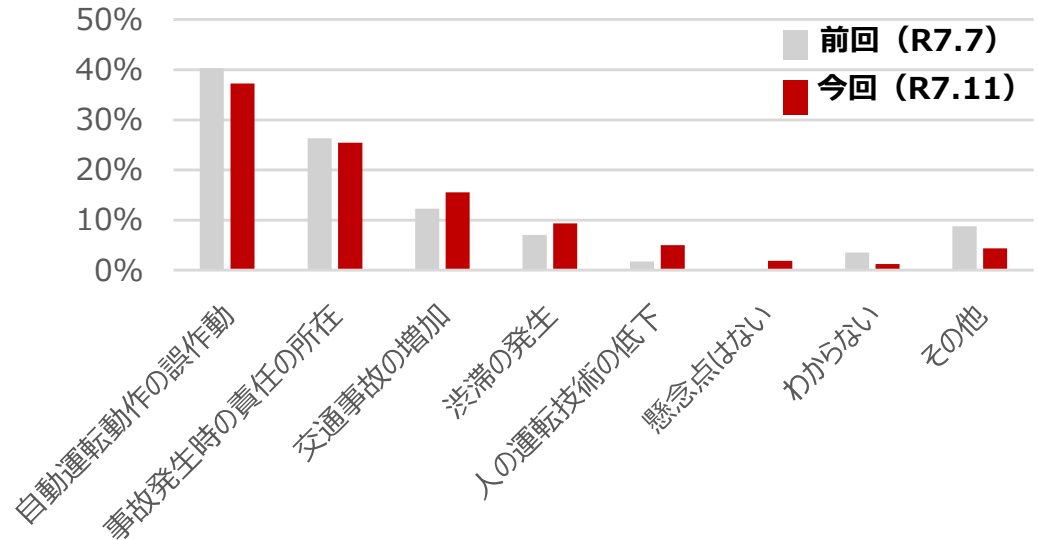
### 令和 7 年度社会実証の取組と成果開催

- アンケート調査の結果、自動運転サービスに期待することとして、「交通事故の削減」や「渋滞の解消・緩和」の割合が増加。一方で、懸念することとして、交通事故の増加や渋滞の発生の割合が増加。
- 試乗会への参加意向は8割以上であり、自動運転バス実装後の利用意向は前回調査時よりも増加。

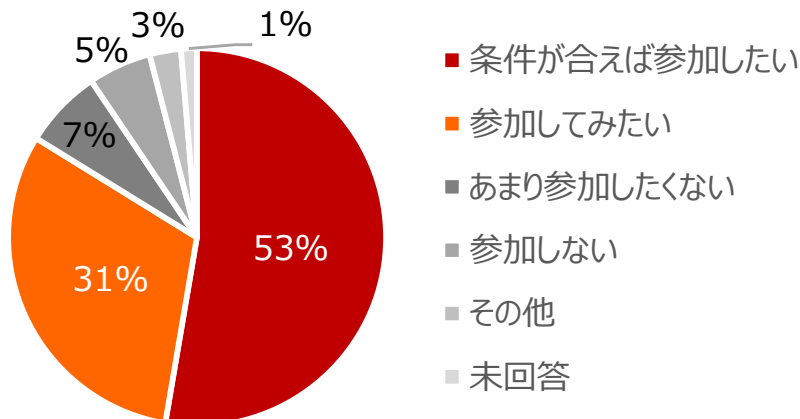
自動運転サービスに対して期待すること



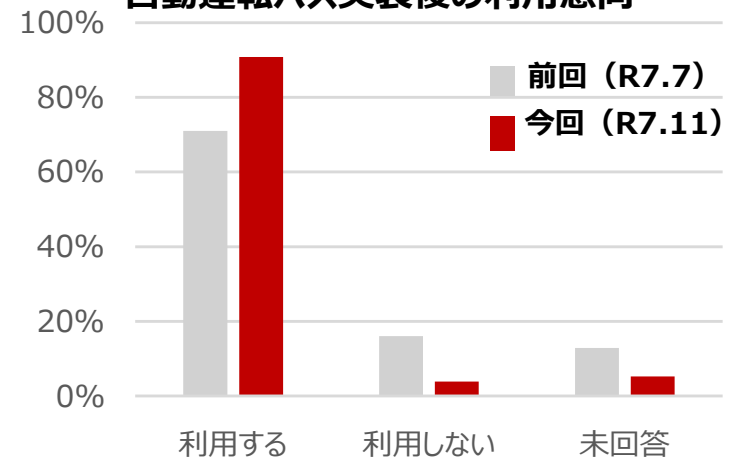
自動運転サービスに対して懸念すること



試乗会への参加意向 (R7.11のみ)



自動運転バス実装後の利用意向



## 【報告事項3】

### 第6回和光市自動運転サービス導入事業におけるワーキングの開催結果について

- 第6回和光市自動運転サービス導入事業におけるワーキングを開催した。開催内容を下記に示す。

開催日時：令和8年3月24日（火）10:00～11:00

開催場所：和光市役所 庁議室

開催形式：対面、Web併用

議 題：(1) 令和7年度における実証走行の中止について  
(2) 令和7年度社会実証の取組と成果について  
(3) 自動運転の動向と今後の進め方について

ワーキングメンバー	オブザーバー
東武バスウエスト株式会社	国土交通省関東地方整備局北首都国道事務所
本田技研工業株式会社	国土交通省関東運輸局自動車技術安全部技術課
損害保険ジャパン株式会社	経済産業省関東経済産業局産業部
日本信号株式会社	内閣府地方創生推進事務局
先進モビリティ株式会社	埼玉県企画財政部交通政策課
BOLDLY株式会社	
アイサンテクノロジー株式会社	
和光市	

※結果報告は別紙

# 【議事事項 1】

## 自動運転の動向と今後の進め方について

- 令和8年1月22日（木）に国土交通省は、国土交通大臣を本部長とする「第1回 自動運転社会実現本部」を開催し、自動運転社会の早期実現に向けた取組を強力に推進するとともに、自動運転の普及に伴う社会変容への対応について検討
- 自動運転システムを搭載した自家用車について、「AIベース」の開発が急速に進んでいる
- 将来的には、バス等の商用車についても検討アプローチが拡張する可能性

人によるプログラミング 「ルールベース」

AI学習による開発 「AIベース」

従来の開発手法

最新の開発手法

「人」が走行パターンごとに自動運転のプログラムを規定

AIを路上走行させ、運転パターンを自己学習させる



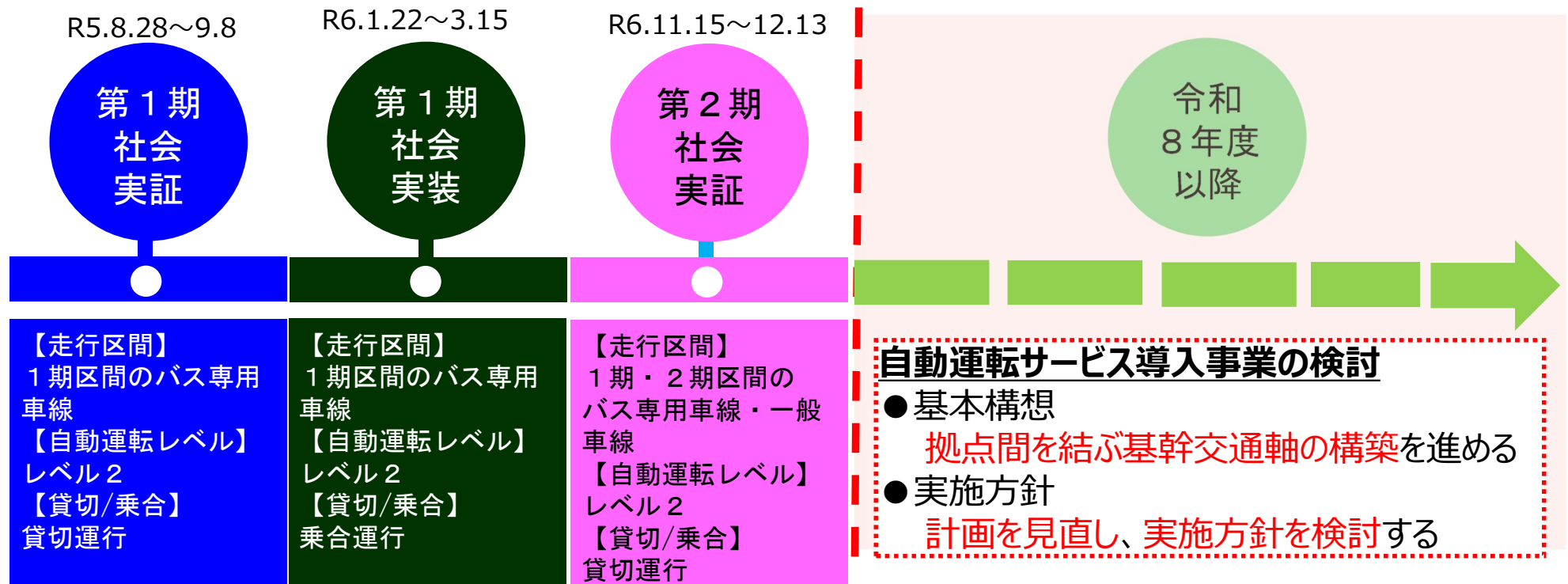
	ルールベース	AIベース
プログラム	<b>膨大</b> ルート上で想定される状況(信号・駐車車両等)に対する車両の動作をエンジニア(人)が定義	<b>基本的なプログラムのみ</b> 「走る・曲がる・止まる」等の基本制御に加え、交通ルール(信号など)、他の車両や歩行者の避け方等も自動学習
デジタルマップ	必要	不要
走行環境	3次元デジタルマップが存在するエリア	どこでも
事故時の解析	可能	困難
開発費用	膨大	比較的安価
開発状況	地域限定で実用化	2027年以降市販化(当初はレベル2)

# 【議事事項 1】

## 自動運転の動向と今後の進め方について

### ■ 今後の進め方について

- 令和8年度以降の進め方について
  - ・和光市地域公共交通計画の見直しの中で、地域交通の今後の施策方針について検討する



### ■ 承認事項

- 自動運転サービス導入事業に関する事業計画の見直し、実施方針を検討することについて



## 第6回和光市自動運転におけるワーキング結果報告について

### ■開催日時・開催形式

- 2026年3月24日（火）10:00～11:00
- 対面&Web併用

### ■報告事項

- 令和7年度における実証走行の中止について（和光市）
- 令和7年度社会実証の取組と成果（和光市）

### ■議題

- 自動運転の動向と今後の進め方について（和光市）

### ■主な意見・質疑内容

- 大型EVバスの選定について、購入予定だったバスは航続距離が優れている等、事業性や実績を踏まえると妥当と思われる。
- AIベースの自動運転の開発状況について、国内の事業者においてもエンドツーエンドの検討が行われている。
- AIベースの自動運転における責任の所在について、今まさに国で検討されており、その方針を踏まえた整理になると思われる。
- 自動運転の今後の進め方における基幹交通軸の構築方針の確認  
→異論なし

<ワーキングの様子>

